

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2018年 11月



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2018年 11月1日発行 通巻307

**技術・体力に合った
山行をしよう！**

1 1 月号目次

・ 目 次	2
・ 1 0 月理事会報告	3
・ メガソーラ・シンボ参加報告	5
・ ワンコイン講習会案内	7
・ 房総ロングハイク案内	8
・ リレーエッセー	9
・ 福島交流登山報告	12
・ 新書紹介	15
・ 岡山県連・支援のお礼	16
・ 県連たより	17
・ 1 1 月・1 2 月	18

表 紙 紹 介 （交流登山と原発被災地視察）

松戸山の会の有志 8 人が、福島県連主催の「交流登山と原発被災地視察」に参加し、報告を投稿してくれました。

福島の仲間が案内してくれて、原発被災地の現状を視察しました。

報告にもありますが、

「コントロールできない化け物を、今でも再活動に向けているので恐怖です」被災地の空気を吸い、現状をしっかりと受け止められたことは有意義だったと思います。地元の人々の苦しみ・恐怖を共有して、被災地支援を継続して行きたいと思います。

（詳細は、報告を掲載しました。写真は全員が登った女体山です。）

千葉県連 10月理事会報告

千葉県連理事会を下記の通りご報告いたします。

1. 日 時 2018年10月18日(木) 19時～20時20分
2. 会 場 船橋市西部公民館
3. 出席会 ちば山の会、君津ケルン山の会、茂原道標山の会、船橋勤労者山の会、松戸山の会、東葛山の会、千葉こまくさハイキングクラブ 千葉民医連山を歩こう会、山の会「岳樺クラブ」、かがり火山の会、岳人あびこ、市川山の会、まつど山翠会、まつど遠足クラブ1年さくら組
- 役 員 古瀬顧問、広木会長、小林会計、伊東教育遭難対策委員長、桑原ハイキング委員長、菅井自然保護委員長
- 臨時出席 石川全国連盟理事、岡田ふれあいハイク実行委員長

4. 議題・討議事項

1) 各委員会報告

①教遭委員会

- ・事故報告は沢での1件報告（累件数9件）。沢事故が多発中。
- ・「2018 事故防止・経験交流集会」の中間報告と参加申込は10月3日に理事宛再送付した新フォーマット提出の再連絡。

②ハイキング委員会

- ・今後の「房総ロングハイク」コース見直しを目的に、委員会メンバー中心で下見山行を11月8日(木)に実施予定。

③自然保護委員会

- ・第17回全国登山研究集会（11月23～24日 愛知県）3名参加予定。
- ・初の「全国メガソーラー問題シンポジウム」（10月8日）に2名参加。多くの反対運動団体が事例報告をして理解を深めあえたとの報告。

④女性委員会報告

- ・「第12回ワンコイン講習会」は12月1日(土)に西部公民館での開催決定。講師は安村先生。

⑤「第17回ふれあいハイク」の中止報告

- ・残念ながら台風の影響で中止になったが、当日配布予定だった手作りの貴重なしおりを各会に配布。次回は2020年度に開催予定。
- ・参加者、サポート隊も年々高齢化して、準備や当日の運営に影響が出ている事を考慮して、今後の対応を協議して行きたい。

2) 県連課題の検討報告、その他

①石川全国連盟理事報告

- ・県連での過去 10 年間の事故事例から、事故要因・傾向から事故防止対策考える資料として作成した「事故事例から見えてくる千葉県連の状況」資料を基に説明及び質疑応答を行った。

事故の半数が転倒事故との事。

この資料から山行事故を減らすために、我々は何を学び実行するかが課題である。

- ・先日リニア建設現場を見学した現状報告があった。

リニア建設の反対運動署名の継続を確認。

②会長報告

- ・交流山行「三条の湯～天平尾根を歩く」は現時点で 2 会 6 名の参加申込。参加期限を 10 月 25 日まで延長して各会へ参加再打診。
- ・「千葉ニュース交流会」は、前回会議結果をもとに具体的な対策案を機関誌委員会と各会推進者でつめていくことを確認。
- ・来年 2 月の代表者会議日程は 11 月度理事会で決定することを確認。

報告者 県連理事・竹口（こまくさHC）

県連よりの連絡

- 労山カレンダーの申し込みを、早急にお願いします。

2019年・労山カレンダーの申し込みが低調です。

申し込みを忘れていた会、希望をとってない会、今年はやめようと思った会も、早急に連絡をお願いします。

- ・申込み先

全国連盟事務局 [Eメール：jwaf@jwaf.jp](mailto:jwaf@jwaf.jp)

電 話 ： 03-3260-6331

FAX ： 03-3232-4324

同時に 県連理事・羽鳥理事（東葛山の会）にも連絡して下さい。

hatori0227@jcom.home.ne.jp

- 2018年11月末の、会員数の報告をお願いします。（12月末）例年お願いしていますが、期日までに連絡がないので今年は早めをお願いをします。次年度の連盟費算出の根拠となりますので正確に報告をして下さい。

連絡先・県連会計 小林 康男 Eメール：3401fqs@jcom.zaq.ne.jp

メガソーラー反対運動推進団体が 茅野で全国シンポ

参加報告者 古瀬 健(県連顧問)



(全国シンポジウムで諏訪市郊外の計画について説明する参加者とパネリストら)

大規模太陽光発電所（メガソーラー）の建設に批判的な市民団体などが 10 月 8 日、初の「全国メガソーラー問題シンポジウム」を茅野市民館で開きました。諏訪地方の「太陽光発電問題連絡会」などで行う実行委員会主催で、県内外から 約 500 人が参加。メガソーラー建設計画への反対運動を展開している団体が事例報告をし、理解を深めました。この集会に県連盟の自然保護委員長の菅井修と顧問の古瀬健が急遽出席しましたので報告します。

「FIT法【固定価格買い取り制度(Feed-in Tariff, FIT)】の何が問題か」と題して、長野県富士見町の太陽光発電事業を考える会の佐久裕司さんが問題提起をし、高田宏臣さん(千葉県在住の造園土木家)が「現代土木の限界と災害、大地環境の仕組みから、メガソーラーの問題を診る」と題して、基調講演を行いました。メガソーラーは地形の安定性を保つ自立的な自然の仕組みを破壊するものと断じました。

「メガソーラーをやっつけろ！ ～闘う住民のための十訓～」と題して、駒ヶ根法律事務所の梶山正三弁護士が支援してきた沢山の事例から得た十訓を披露し参加者を激励した。その十訓とは

①幻想を捨てよう（ソーラー発電はダーティーなんだ。ソーラー発電は石油火力発電より石油を使うし、CO2を出すんだ。ソーラー発電の推進は原発推進の口実づくり）

②戦略を持とう ③圧力団体になろう ④出し惜しみをするな！敵を知り尽くす ⑥合法的実行使を！ ⑦行政不信のススメ ⑧できてしまってもあきらめない ⑨行政基準は諸悪の根源 ⑩絶望からの出発

事例報告は、長野、千葉、静岡、愛知、三重県の5団体が行いました。

茅野市の「米沢地区L o o o p ソーラー対策協議会」は、諏訪市郊外の霧ヶ峰高原近くに計画されたメガソーラーについて報告。柴田豊会長は計画地一帯には米沢地区や諏訪市の水源があるとし、「メガソーラー建設で水の質と量に問題が起きる恐れがある」と訴えました。

森林約146ヘクタールの伐採を伴う計画がある千葉県鴨川市の住民団体代表、勝又国江さんは、メガソーラー建設によって森林が失われ、自然環境に悪影響を及ぼすと主張し、「業者が倒産すれば『はげ山』が放置される」と強調しました。

事例報告をした5団体の代表によるパネル討論もあり、進行役を務めた実行委事務局の小林峰一さん（諏訪郡原村）は「メガソーラー建設は、地域の自然環境や平穏な暮らしが脅かされる計画だということも感じてほしい」と参加者に訴えました。

参加団体は、今後も同様のシンポジウムを開き、団体同士の連携を図っていく方向も確認しました。

全国での、最近の主なメガソーラー反対運動

- ・ 栃木県日光市
市民団体が反対署名 6,931 人分を市議会に提出
- ・ 三重県志摩市
地元住民 漁協が中止を求める要望書
- ・ 高知県土佐清水市
大岐地区の新設計画で住民が市へ指導要望
7 団体と個人が施設建設への不同意書を県に提出
- ・ 京都府南山城村
メガソーラー建設に地元自治会が反対
- ・ 栃木県鹿沼市
市民団体が市へ建設差し止めを求める署名提出
- ・ 岡山県岡山市
市内の山林で浮上した整備計画に住民が反対の声
- ・ 長野県飯田市
風越山での整備計画に住民が中止要望書を市に提出
- ・ 静岡県伊東市
八幡野地区の設置計画に市議会が反対決議
- ・ 香川県土庄町
豊島で地元住民が反対運動
- ・ 滋賀県高島市
メガソーラー建設反対の署名を住民が市に提出
- ・ 福岡県飯塚市
白旗山の計画に対し、住民が反対署名を市に提出

「メガソーラ建設から、房総の自然を守る」運動に参加しよう！！

県連は「鴨川メガソーラ建設中止を求める会」と協力して、メガソーラ建設中止の署名に取り組んでいます。全会員の署名をお願いします。

第12回ワンコイン講習会

主催 千葉県連盟女性委員会

テーマ

ケガをしないで

山をたのしむ

オレにまかせろ！



講師 安村 淳 先生

1946年生まれ、16歳で登山をはじめ、シシャパンマ、チョー・オユー・エヴェレスト等に登頂、高所登山ガイドとして活動中。

「マウンティンゴリラ登山学校」を主宰し、安全登山・自立した登山・生涯登山をテーマに活躍中。

千葉県連では、昨年に続き4回目の講習会です。昨年の講習会テキストは、千葉県連ホームページに掲載しています。

ぜひ、活用して安全登山に役立ててください。

実施日 2018年12月1日（土）13時～16時

場 所 船橋市西部公民館2階（JR下総中山駅より徒歩10分）

参加費 ワンコイン（500円）（労山会員外も同額です）

問い合わせ先：千葉県勤労者山岳連盟 ホームページ事務局への問い合わせ

女性委員会では、山仲間と、いつまでも楽しい登山やハイキングを続けるために、いつでもどこでも出来るトレーニング・正しいメンテナンス等を学んで来ました。

安村先生は、鍼灸師・マッサージ師でもあります。膝痛・腰痛に悩んでいる方に、「指圧のツボ」を、特別伝授します。

登山での、正しいストックの使い方についての特別講義も有ります。

第 35 回 房総ロングハイキング募集

主催 千葉県勤労者山岳連盟ハイキング委員会

日 時 2019 年 1 月 26(土)～01 月 27(日) 一泊二日 (当日参加可)

集 合 七里川温泉：沖津屋 26 (土) なるべく 16 時 30 分迄に集合

27 (日) 当日参加 7 時 30 分集合

君津市黄和田畑 921-1 電話 0439-39-3211 フリーダイヤル 0120-397428

27 日コース 七里川温泉 8:00 車移動＝清澄寺駐車場 9:00/20 出発～一杯水林道分岐～W0 (ツクバネ
樫目印) 入口～(東大演習林) 大平歩道入口地点～W15：烏帽子山々頂～W33：硯石分岐
～向峯林道～鶏毛山W45～民地～坂本駐車場ゴール 14:30 着

歩程約 5 時間 30 分 (休憩 1 時間 30 分含む)

25,000/1 地図 「上総中野」「安房小湊」

募集人員 60 名位 少々雨天決行：大荒の場合は中止

費用 6,000 円 (一泊二食と弁当、移動) 当日参加 1,000 円 (弁当、移動、)

締切 12 月 27 (木) 各会責任者へ申し込む

直接電車で参加の方

電車時刻 (往) JR 久留里線 木更津発 13:01 上総亀山着 14:08

々 15:48 々 16:54

上記着の時刻に合わせて送迎車が出ます。時刻に変更有注意

自家用車：直接七里川温泉に来て下さい。スペース 5 台位 (出来れば JR でお願いします)

行動予定

01 月 26 (土)	16:30～	受付開始
	17:30～	挨拶、ガイダンス (日程、コース説明)
	18:30～	夕食、交流会後就眠
01 月 27 (日)	7:00	起床、掃除、支度
	7:30	朝食 (弁当を受け取る) (食事は自由)
	8:00	車で移動 (当日参加者は時間厳守) 清澄寺駐車場
	14:30	坂本駐車場着 (JR、車の方は宿のバスで送る)

電車時刻 (復) 安房天津駅 15:00 発：千葉 16:50 着 時刻に変更有注意

安房天津駅 16:21 発：千葉 17:42 着 18:03 発：千葉 19:53 着

尚、東葛地区 (東葛、松戸、柏、我孫子) はバス利用して、前日軽登山してから
集合地 (七里川温泉) に行く事にしました。11,000 円 (バス代、1 泊 2 食 弁当、)

行先 養老溪谷界限散策 (手彫りトンネル歩行、チバニアン見学など)

二日目 合同山行

※各会纏めて、申し込み先 ハイキング委員長 松戸山の会 桑原年一 まで
申し込み問合せ連絡先 ふわくハイキングサークル 実行委員長 田中 康男

(TEL/FAX 0436-25-0109)

東京大学千葉演習林の紹介

ハイキング委員 深草 茂美（岳人あびこ）

「はじめに」

県連ハイキング委員会主催の恒例のハイキングの一つに、毎年1月に行われる、「東京大学千葉演習林」を歩く、房総ロングハイキングがあります。私は昨年、所属する会よりハイキング委員を仰せつかり、その関係で房総ロングハイキングに昨年と今年の2回参加しました。他の一般的なハイキングコースとは異なり、「東京大学千葉演習林」を紹介したハイキングガイドブックのたぐいは皆無であったため、コースの知識は全くないままの参加でした。一方ハイキング委員会で、今年の房総ロングハイキング直後、再来年の房総ロングハイキングからは「東京大学千葉演習林」の歩行コースを変更しようとの話がでていました。そこで、遅ればせながら「東京大学千葉演習林」についてネット等で調べました。その結果、千葉演習林 120 周年記念出版実行委員会編「わが国最古「大学の森」東京大学千葉演習林の全て」という冊子を見つけました。その冊子から「東京大学千葉演習林」は日本最大の大学演習林であり、大学の研究や教育のための実習林・実験林で、大学における研究・教育のほか、高等学校などとの連携授業や市民向けの公開講座などで活用されていることを知りました。

当県連には「東京大学演千葉習林」とは何かをご存知の方は沢山いると思います。しかし私の様に新規参加し、「東京大学千葉演習林」について知識を持ち合わせてない方々もいると思います。その方々が房総ロングハイキング参加するにあたって参考として頂き、演習林・実験林の存在意義を確認しながらハイキングをして頂ければ、より興味深くハイキングを楽しめるのではないかと思います。「東京大学千葉演習林」の概要を、本場をお借りして紹介させて頂くことにしました。

「東京大学演千葉習林の紹介」

以下の内容は千葉演習林 120 周年記念出版実行委員会編「わが国最古「大学の森」東京大学千葉演習林の全て」の「概要」部分の引用です。近年の「東京大学千葉演習林」の取組を、詳しく知りたい方は「東京大学千葉演習林」のホームページに本書の購入方法が掲載されていますので購読をお勧めします。

・ホームページアドレス www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chiba/

1.沿革

1894（明治 27）年千葉懸長狹群清澄村「清澄官林」を農務省より文部省に移管創設

1897（明治 30）年隣接する「奥山官林」農務省より移管を受け現在の面積となる

2.所在地

房総半島の東南部、房総丘陵の東端に位置し東経 140° 5'33" から 10'10" 北緯 35° 8'25" から 12'51" の範囲にあって、南部は鴨川市、北部は君津市に属し、南部は「房総国定公園」に北部は「千葉県立養老溪谷奥清水自然公園」に属している。

また首都圏自然歩道「関東ふれあいの道」が演習内を通っている。

3.地況

東西に横断する主稜線により、南側が太平洋に注ぐ二タ間川の流域、北川が東京湾に注ぐ小櫃川の流域に分かれている。標高は概ね50mから370mで地形は急峻かつ複雑。地質は新第三紀海成層を基盤とし、第四紀非海成層に部分的に覆われており、断層が多く存在する。基岩は砂岩、礫岩、泥岩、凝灰岩からなっている。土壌は主として褐色森林土になっている。月平均温度は真冬が4℃、真夏が25℃、年平均温度は14℃、年降水量2200mm。

4.森林管理区分

森林は樹種構成、管理目的等により5つに区分され管理されている。

針葉樹天然林 387ha (17%) 上層木はモミ、ツガ、下層木は主にシイ・カシ類の
自然林 広葉樹天然林 949ha (43%) 旧薪炭林、薪炭材需要の低下に伴い放置された森林スダジイ、カシ類、コナラ、ケヤキ、カエデ類で構成

人工林 825ha (37%) 研究目的で天然林を皆伐しスギ、ヒノキで造成した森林見本林
56ha (3%) 国内外の様々な樹種を展示する目的で造成した森林苗畑、採種園等 8ha
(一) 病原に対する抗菌体苗配布用育成林、増殖試験林、及び優良親木から種採取目的林等

5.教育

多くの試験研究林、施業実験林、学術山行林及び森林博物資料館があり、これらを森林科学に関する東大学生や他大学の実習教育の場としている。

6.研究

2011年から2020年の研究課題として、以下の研究が行われている。

- ・人工林の研究課題
 - ①持続可能な人工林経営を実践する理論と技術の高度化
 - ②林木の育種と増殖技術の開発。
- ・天然林の研究課題
 - ③絶滅危惧植物の保全に関する研究
 - ④房総丘陵における暖温帯林生体系の保全管理

7.「東京大学千葉演習林」案内図

「所在地」「地況」「森林管理区分」の参考として、次ページに案内図を添付しました。

—以上—

東大演習林を、見て・歩く 「房総ロングハイク」に参加して下さい。

- ・実施日：2019年1月26日（土）・27日（日）
- ・宿 泊：七里川温泉・沖津屋（いつもの温泉付旅館）
- ・参加費：1泊2食付 6,000円（弁当付）
当日参加 1,000円（弁当・送迎費）
- ・申込み締め切り：12月27日
（詳細については、ハイキング委員会報告にあります）



福島交流登山参加報告

(原発被災地視察&二ツ箭山)

報告者 松戸山の会

- ・ 山行日 2018年9月15日～16日
- ・ 参加者 L 菊地 SL 鈴木知八子 丸山宏 斎藤ちずゑ 江原洋子 須田 加藤静江 石森
- ・ コース 15日(土) 松戸 5:45ー常磐道ー相馬 IC10:00ー宿夕鶴 10:30／
11:00ー原発被災地視察ー夕鶴 16:00 夜 講演会&交流会
16日(日) 宿 8:00ー二ツ箭山登山口 10:00ーㄨ張場 10:45／11:00
ー男体山と女体山鞍部 11:40ー女体山山頂 12:00／12:35
ーㄨ張場 13:15／13:25ー登山口 14:20

福島に来てくなんしょ！（福島県連企画）

労山ニュースの一部が目に残る。相馬に集合して原発被災地視察して、翌日阿武隈山系の山を選択して登る計画。

私は福島出身で3・11の時、父の葬儀で実家に居りあの地震を体験し、原発で避難した友人もあり、ぜひこの機会に行こうと思った。計画を公表したら予想外に7人の参加者が集まり、私の友人1名加わり8人で参加してきました。一人一人が感じた声です。（菊地）

15日(土) 雨のち晴 原発被災地視察

震災から7年半余りの月日が流れ、報道で何回も目にした映像とは、かけ離れた原発被災地視察は、貴重な体験でした。（一部の報告です。）

- 1 原発 20k 圏内の希望の牧場 汚染肉牛が約 300 頭、牧場で命が尽きるまでお世話をされている吉沢さん。東電、政府は殺処分して風化させなかったようにしたいが、牛の所有者の殺処分同意がなければできない。原発の怖さ、真実を語らない政府。異様な臭いです。
- 1 平な土地にはフレコンバック（汚染物が入っている黒い袋）があちら、こちらに山のように積まれているが、20k 圏内に入るとフレコンバックの山の数はいくらも数えられない。塀で囲みズート、ズート続いていた。
- 1 20k 圏内の農耕地は太陽光パネルが延々と並び、ゼネコン、政府、企業が運営している
- 1 立派な小学校は 4 校を、まとめて 1 校にしても、帰還者が少ないので新 1 年生は 0 人。
- 1 宿（夕鶴）にて なりわい裁判と福島これから の講演がありました。

●コントロールできない化け物を、今でも再活動に向けているので恐怖です。異常気象、自然界の変化は想定できません。原発事故は収束できないのではないかと思います、気持ちが重くなりました。(加藤 静江)

今回の福島の旅は、中身の濃い有意義な2日間でした
震災の年は、山の会で気仙沼に応援に行きヘドロの掻き出し等しました。
7年も経過したのに、福島の現実原発と津波の二重苦を抱えたままでした。
帰りたいのに帰れない故郷、原発さえ無かったら…。
被災地を巡りながらいろいろ考えさせられました。(江原 洋子)

被災地視察で復興が進んでいない現状に苛立ちを覚えました。
原発さえなかったら、この自然豊かな土地で楽しい生活が続いていた筈です。
さぞかし無念なことでしょう。

ただ、一つほっこり安堵したことは、海岸すぐ近くの請戸小学校の先生、生徒全員が助かったことです。地震直後、先生の的確な判断ですぐに避難しました。
歩けない子供は先生がおんぶして、上級生が下級生の手を引き3キロ先の山に向かって



て逃避行です。全員避難した後、学校はもとより歩いてきた道路も畑の道も津波が押し寄せました。

「20年は帰れぬと言ふに百歳の母は家への荷をまとめおく」

(帰還困難区域の大熊町から会津若松に避難した男性の短歌です) (鈴木知八子)

数多の重い現実を見聞きした中でショックだったのは 《 原発事故は人災！ 》
福島第一原発のある付近は 津波被害面積

の少ない所との事原発を建設する所だけ 海拔30mの台地を10mまで下げた。
原発を冷やすために 多量の海水をくみ上げる必要があり、コストダウンの為。
そこで高さ15mの津波に襲われ全電源を喪失 その為冷却装置が働くなり原子炉の爆発事故につながりました。

この地域は東北電力管内なので首都圏や関東地方の電力を賄ってきた。

太陽光パネルが、原発事故により現在および将来に向けても利用困難になった土地に沢山建設されていた。

売電収入は農業復興と地域再生のための原資とか。風力発電も今年から3基稼動。

仮置場 広い田んぼの真ん中に黒いフレコンバックに1トンの除染物が詰められ累々と置かれていた。バックの耐性は3年。又汚染が始まっていないかと心配です。まだまだ除染は続いており5cm削り取っては栄養分のない山土5cmを入れていく。作物はすぐには収穫できないそうです。山は除染していない。

家の解体 浪江の町は一部避難解除になり、住宅の解体工事が始まっており、3800戸の家が、国の費用で壊されていきます。
住まなくなった家は 野生動物に荒らされていた。

●沢山の問題が山積です。国、地方自治体の復興事業がちぐはぐで、被災者の要望を汲み取るのも大変難しい！ジレンマを感じた視察でした。（須田 信子）

数年前の千葉県連ボランティアから 2 度目でしたが、一部復興はあるものの、まだまだ被災の跡が多く残っていました。南相馬の小高地区では、児童数の減少で区内の 4 つの小学校が一つの新校舎で学んでおり、門柱に 4 校の名前が記されていたのには、胸を突かれる。

●改めて福島原発被害への取り組みは、最近の災害列島とも言える日本全体の問題でもあると感じました。（丸山 宏）

福島の現実を再認識しました。当事者の気持ちを思うととてもつらいです。いつも心の隅に原発の重みを感じていますが、色々な報道に心がぐれそうになります。私たちの生活は福島の人達の犠牲の下で成り立っていると心に刻みました。福島の皆さんが早く安らかに暮らせる様にと 생각합니다。（斎藤 ちずる）

相馬の現状は“復元途中 道遥か遠きけり”その中、感動で胸が詰まる話。校長先生達と生徒による請戸小学校の避難実話です。とっさの判断で全員の命が救われました。けれど希望の牧場では未来は見えてきませんでした。（石森）

16 日(日) 晴 二ツ箭山

交流山行は相馬散歩会、郡山労山、名古屋山岳会の方々とワイワイ、ガヤガヤと仲間と楽しんだ山行でした。

2014 年 4 月に女体山に登った時、岩に映えるアカヤシオに感動した事。月山が赤に染まっていた事も。今回は前日の雨で岩苔が滑りやすく、慎重に歩く。危険な箇所は郡山労山の方のアドバイスがあり、心強かったです。

4 年前はさほど怖さを感じなかったのに、今回は怖かった。体重も増えたし、歳だね。（加藤）

「鎖場があるよ」と聞いていましたが、想像以上の崖あり、沢ありでいつ転ぶかと、とても緊張しました。でも事故もなく、かなりの速さで下山。4 時間程の山行ですが、スリルあり、内容の濃い山でした。楽しかった！（斎藤）

沢登りから始まり、尾根を突き上げた先の女体山の厳しい岩場と変化に富んだ楽しい山でした。福島県連の方々や愛知の仲間と、山行を共有できたのが何よりでした（丸山）

30m ある鎖場“ワァー凄い！”行くか、止めるかの選択でしたが、恐らく次の機会は無いだらうと思い、無心で登りました。山の会の皆さんは平静でした。流石です。私はただただ「登ったヨ！」という言葉の重みを得たかったのかも・・・

久しぶりの達成感でした。（石森）

相馬散歩会の案内で、全員が女体山に登り景観を楽しみました。自然の素晴らしさを感じながらも、手放しでは喜べない複雑な思いを残しながら帰途に着きました（江原）

「一生、山に登るための体づくり」

石田良恵 著



石田先生は、呼びかけます。

「登山はゆっくりでも歩けば何歳まででも続けられます。

本書は日々行うトレーニングやストレッチ、そのための栄養、登山後のアフターケアなど、少しでも長く登山を楽しむための知恵をまとめました。安全に楽しく息長く登山を続け「悔いのない生涯」を自分の努力で手に入れましょう

いつでもどこでもトレーニングは可能です。」

石田 良恵先生紹介

- ・女子美術大学名誉教授・保健学博士
- ・日本ウエルネススポーツ大学教授
- ・フロリダ大学・スポーツ科学研究所客員教授
- ・専門：主に減量、加齢、トレーニング効果

定年退職後、登山に目覚め、生涯登山をめざした筋トレの必要性から「山筋ゴーゴー体操」の普及に取り組んでいる。

通常価格 1200円＋税

労山会員限定・割引価格

5冊以上の場合

1部 1036円・送料無

千葉県連でまとめて注文します
各会で必要部数を連絡下さい。

広木まで

: danphiro@zpost.plala.or.jp

日本勤労者山岳連盟 様
各地方連盟 様
各山岳会・クラブ 様

西日本集中豪雨被災者義援金振込のお礼

去る7月上旬に起きた集中豪雨による岡山県倉敷市小田川の氾濫は、あっという間に多くの人たちが住む街を、家屋を、車を、家畜を飲み込んでしまいました。「晴れの国おかやま」をキャッチフレーズとするこの岡山の地に住むものにとって、大きな自然災害で被災することは思いもよらない出来事でした。

濁流に翻弄され、家屋が破壊されながらも、避難し、なんとか生命だけはとりとめた多くの人達、その中に、山を愛し、自然を愛し、花を愛する私達の仲間もいました。

私達岡山県連としてもなんとか力になれないかと義援金を募る事にし、全国連盟にもお知らせしたところ、すぐ全国の仲間呼びかけて下さり、全国連盟はじめ多くの地方連盟、各山岳会、ハイキングクラブ、個人の方々から、多額の義援金を送付頂き、まことにありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。一応9月15日をもって締切とさせて頂き、集まった義援金（約170万円強）全額を被災者の会員にお渡しする事を、9月下旬の県連理事会で決めました。

今、被災した会員の人たちは、仮設住宅や親せきの家に仮住まいしながら、復興へ全力で取り組んでいるところです。

台風や地震、火山の噴火、集中豪雨などが、一年に何回も起きるようになった最近、どこの地でも起こりうる自然災害は、油断は禁物の気がします。

今回、このことを通じ、山の仲間の連帯を強く感じました。私達も何か出来る事があればお返ししたいと思っています。

本来であれば、義援金を送付いただいた一人一人の皆様にお会いし、お礼の言葉を述べるべきところですが、本状をもってお礼に代えさせて頂きます。

本当にありがとうございました。

千葉県連 各会・会員様

7月に起きた、岡山県倉敷市の河川氾濫災害に対し、会員の皆様には義援金のご協力をいただき有難うございました。

岡山県連盟より、義援金の協力に対しお礼が届きましたので紹介します。

千葉県連は、東日本大震災の支援活動を継続しています。その後の災害に対しても多くのご協力をいただいています。

何時起きるか分からない自然災害に対し十分な備えをすると同時に、千葉県連は災害支援に引き続き取り組んで行きたいと思えます。

広木 国昭

県連たより

千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

◎ 県連盟事務所

〒262-0033

千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101 号室

TEL・FAX： 043-306-1190

Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp

JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分

（県連事務所に常駐者はいません）

ご意見・問い合わせは、下記をお願いします。

- ・千葉県連ホームページ：

事務局への問い合わせ

- ・又は：dabphiro@zpost.plala.or.jp

◎ 会員の事故一報送付先

Eメール：教遭委員長・伊東 春正

：itou2385@yahoo.co.jp

FAX：教遭副委員長・広川 登志男

：043-36-7219

全国連盟事務局にも必ず送付する事

Eメール：jwaf@jwaf.jp

FAX：03-3235-4324

◎ 連盟費振込み先

郵便振替口座

00160-3-481509

千葉県勤労者山岳連盟

◎ 「ちばニュース」

- ・原稿送付先

- ・ご意見・問い合わせ は

発行責任者：広木 国昭まで

dabphiro@zpost.plala.or.jp

◎ 千葉県連の支援活動について

支援活動は、各会で計画・実施をお願いします。従来どおり、高速代・宿泊費補助をします。（事前に一報をお願いします）

◎ 支援海産物販売のお知らせ

夏場は休んでいましたが涼しくなったので開始しています。

問合せは：広木まで

出来る時に

出来る人が

出来る事を

danphiro@zpost.plala.or.jp まで

【編集後記】

- ・11月号を発行し、今年も残すは12月だけになりました。

そこで、反省と抱負を簡単に・・・

ちばニュースは、ここ数年（10年来）ほとんど変わっていません。これは決して完成度が高いからでなく、発行者の意識と技術の問題と反省しています。

来年は、ちばニュース発行に参加・協力してくれる会員を一人でも多くして内容・発行体制・配信などを改善したいと思います。ご協力をお願いします。

意見・要望・苦言をお寄せください。

連絡先：danphiro@zpost.plala.or.jp

- ・ちばニュースの投稿は下記で統一します。ご協力をお願いします。

ハイキングや、日帰り山行報告を歓迎します。気楽に投稿して下さい。

ワードで A4・2ページ位、明朝 12m、余白は全て25m

写真を2・3枚 付けていただければ助かります。（無くても結構です）

特別な加工はしないで下さい。（編集者が未熟なため、お願いします）

県 連 活 動 予 定 表

11		行事予定	12		行事予定
1	木	全国組織部	1	土	ワンコイン講習会(西部公民館)
2	金		2	日	
3	土		3	月	県連役員会
4	日		4	火	
5	月	県連役員会	5	水	
6	火	ハイキング委員会	6	木	全国組織部
7	水		7	金	
8	木		8	土	
9	金		9	日	
10	土	事故防止経験交流集会	10	月	
11	日	(富津市民の森)	11	火	全国役員会
12	月		12	水	
13	火		13	木	
14	水		14	金	
15	木	県連理事会	15	土	
16	金		16	日	
17	土		17	月	教遭委員会
18	日		18	火	
19	月		19	水	
20	火	全国役員会	20	木	県連理事会・全国理事会
21	水		21	金	
22	木		22	土	
23	金	全国登山研究集会	23	日	
24	土	(愛知県)	24	月	
25	日		25	火	
26	月	教遭委員会	26	水	
27	火		27	木	
28	水		28	金	
29	木		29	土	
30	金		30	日	
			31	月	

発行者 : 千葉県勤労者山岳連盟
 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
 レジデンス幕張台 101号室
 TEL・FAX 043-306-1190 (常駐者はいません)
 発行責任者 : 広木 国昭(danphiro@zpost.plala.or.jp)
 問い合わせは:千葉県連ホームページ・事務局への問合せまで